



KAWASAKI
SDGs



川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

川崎市職員 脱炭素・SDGs 自主行動宣言

■ 宣言

川崎市は2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年度までに市域及び市役所の温室効果ガスの▲50%削減（2013年度比）を目指し取組を進めています。

また、川崎市は2030年のSDGs達成に向けて、川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針と川崎市総合計画第3期実施計画を統合し、総合計画に掲げる施策・事務事業とSDGs達成に向けた取組を進めています。

私たち川崎市職員は、市民・事業者の模範となるよう、以下の脱炭素及びSDGs推進に資する行動を、自主的かつ積極的に行っていくことを宣言します。

■ 『脱炭素・SDGs』推進に資する職員自主行動項目

SDGs配慮行動

- ① 施策推進にあたり、経済・環境・社会の3側面を意識し、総合的に取組を進めます
- ② 施策推進にあたり、SDGsを意識した情報発信・プロモーションを積極的に行います
- ③ すべての業務が様々なSDGsゴールに相互に関連していることを理解し、積極的に庁内の連携・改善を図ります
- ④ すべての業務が様々なSDGsゴールに相互に関連していることを理解し、積極的に市民・事業者の各主体との協働・連携を進めます
- ⑤ 基本的なSDGs配慮行動として、人権配慮（性別、国籍、障害などへの配慮）や、環境配慮など基本的配慮に努めます

脱炭素配慮行動

- ① 刊行物は原則電子化します
- ② 業務中の紙の使用を控えます
- ③ 運転時はエコドライブします
- ④ 公共交通機関を積極的に利用します
- ⑤ イベント等の開催時には環境に配慮します
- ⑥ 使い捨てプラ（レジ袋等）を原則辞退します
- ⑦ マイバック・マイボトル等を原則携帯します
- ⑧ クールビズ・ウォームビズを原則実践します
- ⑨ 会議室等の冷暖房温度は、適切に設定します
- ⑩ 昼食の食べ残しなど食品ロスを少なくします
- ⑪ 会議等でのペットボトルの使用を原則控えます
- ⑫ 使用していない機器の電源オフなど積極的に節電します
- ⑬ 環境に配慮された製品・物品を積極的に調達します
- ⑭ 会議・打合せ時の資料を原則ペーパーレス化します